教育目標 「 知性豊かに 心さわやか たくましく生きる 」

志 学校だより

R4 .4 .14

四日市市立内部中学校　第２号

教育目標「 知性豊かに 心さわやか たくましく生きる」

この学校通信の表題にも示していますが、本校の教育目標は、「**知性豊かに 心さわやか たくましく生きる**」です。「教育目標」は教職員だけが意識するべきものではなく、生徒のみなさん、保護者のみなさま、地域の方々等、学校にかかわるすべての人が、共通のキーワードとして認識し、その目標達成に向かって協働しながら取り組むべきと考えています。

生徒たちが「たくましく生きる」ためには、**様々な力**を身に付けていく必要があります。**授業を中心とした、すべての教育活動において、以下の力を育成していきたいと思います。**

○ 正しい生活習慣で過ごす力　○ 粘り強く取り組む力　○ 行動・挑戦する力
○ 活用する力　○ 社会や他者とつながる力　○ 見通す力　○ 伝える力
○ 調整する力　○ 解決する力　○ 気づく力　○ 慮る（思いやる）力　等

また、当たり前ですが、普段から大切にしていきたいことは、以下の通りです。

○心を込めて挨拶できる　○時間が守れる　○約束が守れる　○環境美化に取組める

『教育目標』を『キャリア教育の推進』、『めざす学校像』、『めざす生徒像』等と関連付けながら、以下の『重点的な取組』を軸に具現化していきます。

【重点的な取組】◇ 生徒が主体的に取り組む授業を目指した授業改善を進めます。
◇ ひとりひとりを認め、生徒とともに歩む教職員集団をめざします。
◇ 地域、保護者との協働、校区の学びの一体化を進めます。

令和４年度『学校づくりビジョン』につきましては、第１回コミュニティースクール運営協議会で承認を受けてからのスタートとなります。承認いただいた後にご紹介いたします。

部活動紹介

４月８日（金）に部活動紹介を行いました。対面式に引き続き、生徒会執行部の生徒たちが、主体的に運営してくれました。先輩たちが実演や楽しい話を交えながら、各部活動の内容をしっかりと紹介し、その様子を１年生は熱心に見ていました。

今後の見学や体験を通して、自分に合った３年間取り組むのにふさわしい部を選んでください。

部活動紹介だけでなく、発育測定や学年集会においても、「待つ」「移動する」際の姿勢の良さに感心しました。キリッとした先輩の姿にも、１年生は学びました。

『あいさつ』について

入学式では**「中学校生活で大切にしてほしいことは、いつも心を込めてあいさつをすることです。あいさつは、人間関係を豊かにします。」**と話しました。また、始業式では、**「思いやりの気持ちをもってあいさつをしたり、関わったりすることが大切です。」**と話しました。

なぜ、人はあいさつをするのでしょうか。なぜ、あいさつは大事なのでしょうか。なぜ、あいさつをしなければならないのでしょうか。あいさつの言葉自体には深い意味はあまりありません。例えば、「おはようございます」は「朝早いですね」といった感じです。

「挨拶（あいさつ)」の「挨」には「相手の心を開く」という意味が、「拶」には、「相手の心に近づく」という意味があるそうです。「挨拶」とは、自分の心を開くことで相手の心を開かせ、相手の心に近づいていくための積極的な行為と言えます。分かりやすく言うと、「挨拶」には、**「あなたのことを認めています。これから仲良くしていきましょう。」という意味が込められているのです。**ですから、「おはよう」だったら、「今日もあなたに会えて嬉しい」「今日も一緒に頑張ろう」といった気持ちを込めて「おはよう」と呼びかけたいです。

それでは、様々なあいさつの言葉の、もともとの意味や成り立ちを紹介します。

「おはよう」は、朝、自分より先に出て来ていた人に対して、後から来た人が「お早うお越しで（お早いですね)」と言っていたのが、省略されて「おはよう」となったと考えられています。ちなみに、「おはよう」を使っても良いのは、11 時頃までが目安のようです。

「さようなら」は、人と別れる時の挨拶です。もともとは、別れる時に「然様（さよう）ならば、お別れですね」「然様ならば、ご機嫌よろしく」などと言っていたのが省略されて「さようなら」となったと考えられています。

「こんにちは」は、もともと「今日（こんにち）はご機嫌いかがですか」や「今日は良いお天気ですね」と、日中に会った人に話しかけていたのが、省略されて「こんにちは」となったと考えられています。

「すみません」は、「仕事を終える」「気持ちがおさまる」といった意味を持つ「済む」という動詞に、助動詞の「ます」をつけ、それを否定した形となっています。つまり、「自分の気持ちが済まない（おさまらない)」という意味です。他にも、何かを頼む時など人に呼びかける時にも使われます。英語だと「Excuse me.」に近いですね。

「いただきます」は、神様にお供えしたものを食べる時や、位の高い方から物を受取る時に、頂（いただき〔頭の上〕）にかかげたことから、「頂き」に「ます」をつけて、「食べる」「もらう」の謙譲語として使われるようになったことに由来します。やがて、食事を始める時に「いただきます」と言うようになり、食前の挨拶として定着しました。食事の時だけでなく、物をもらうときにも言うこともあります。

もし、人に会ったときあいさつしなかったら、「私はあなたのことを認めていません。仲よくしたいとも思っていません」という意味になってしまいます。これを相手の人が見たら、「失礼な人だ。そんな人とは仲よくなりたくない。」と思うに違いありません。

周りの人と良い関係をつくるために、①相手の目を見て明るく元気よく、②相手より先に、③自分から相手に近づいていって、あいさつしてみてください。